



校長室通信

小国町立小国中学校

令和3. 11. 26 (金) No22

文責 狭間卓史



「SDGsはつながる言葉」

11月16日(火)、大阪府枚方市にある東海大学附属大阪仰星高等学校中等部の皆さんが修学旅行で来町され、本校生徒との交流会がありました。仰星中の皆さんも、SDGsについて学習しているとのことで、本町の取組の一環に学ぶ中で、本校との交流会の企画が持ち上がり実現した次第です。



【仰星中と小国中】

最初に本校生徒会本部が、本校のSDGsの取組を紹介し、その後、仰生中の代表生徒による取組の紹介がありました。SDGsという共通の取組ではありますが、その学び方にはそれぞれの学校の特色がありました。その相互の発表に学んだ後は、本校グラウンドで9年生がSDGs体操を披露し、交流することができました。限られた時間でしたが、これまでの自分たちの取組を振り返ると共に、他校の実践に刺激を受ける貴重な時間となりました。

【小国町の熱い取組】

「SDGsで小国町を知る」

SDGs学習については、小国町が町づくりの基本姿勢として掲げていることから、本校でも「総合的な学習の時間」において3年間をかけて、計画的・系統的に学ぶことにしています。その取組の一環として本校7年生が小国町による学習支援のもと11月4日(木)に「木魂館の木の駅プロジェクト」と「わいた地熱発電所」に学びました。地域に出かけ、地域の特色を地域の方々に学ぶ取組には新しい発見が一杯だったのではないのでしょうか。7年生にとってはこれからのSDGs学習で土台となる時間となったはずであり、これからも学び続けていきます。



「一歩一歩」

11月18日(木)に小国小中学校では、小国町を含む阿蘇郡市7市町村教育委員会の指定を受けて、学力向上を目的とする研究発表会を実施しました。中学校では7年生が数学科(工藤教諭)、8年生が社会科(飯塚教諭)の研究授業を行いました。授業者二人とも本校生徒の集中力と授業を作っていく姿勢を強く感じながらの授業だったとのこと。もちろん見る側も刺激を受ける授業でした。今回の研究発表会は、本来であれば大勢の参観者を集めて取り組む予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染対策の一環として、直接の参観はごく一部の方々のみに限定し、他の大勢の方々はオンラインで視聴していただく形態をとりました。授業者以外の職員もそれぞれにオンライン配信のための役割を担っており、チーム小国の力を示してくれました。